

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：R5年3月25日

事業所名 すばる放課後等デイサービスセンター昭和

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	1	利用児の状況により部屋を仕切っている	・自傷他害などこだわりが強くなった場合は、落ち着けるスペースを確保できるようにしていく。
	2 職員の配置数は適切である	9	1	土日祝日への対応を行っている。	・常勤職員を増やして支援力を高めている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10		子ども用トイレを設置している	・オムツ替えなどがスムーズにできるスペースを確保したい。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10			・職員会議にて利用児の支援を振り返り、目標の確認と支援方法を統一している。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	3	保護者への情報発信を増やす	・SNSを利用した情報発信を行っていく。 ・HPへの掲載を行う。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	2		・第3社評価について結果を掲示していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		研修の機会が多い	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10		自発管を中心に職員全体で対応している	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	10		職員で検討しながら企画している	・今後も利用児に合った活動プログラムを作成し評価していく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1		・長期休み時などのプログラムを、あらかじめ作成し保護者への協力を得ていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10			
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10		利用児の実態に合わせた計画となるよう検討している。	・モニタリング会議や職員の意見を聴取しながら計画作成に活かしている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		毎日、勤務職員で打合せ会議を行い、その日の活動などを確認している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10			
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10			
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10			
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	8	2		・ガイドラインについて職員と読み合わせを行うなど周知を図る。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		自発管が出席している	・会議結果などの情報をまとめ、一覧にして職員が確認できるようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	2		・支援学校と連携し情報共有も図っている。一般校についても、モニタリング会議などで情報共有を図っている。連携しやすい環境を整えていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			現在医療的ケア児の受け入れはない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	4	受入時の聞き取りで対応している。	・保育園とも連携して情報の共有を図り、支援に活かしていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			まだ事例はないが、今後情報提供を行っていく。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	3	現在児童館を利用している児童がいる。	・全体での交流については今後検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	10		地域の協議会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		送迎に際及び連絡帳等で日々の状況を伝えると共に保護者とお話している。	・今後も保護者に状況を伝え、家庭の状況もお聞きする中で適切な発達に繋がるようにしていく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9	1	保護者にも生活について伝えている。	・自傷他害や強い拘りなど、安定に向けて情報交換している。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	2	利用日について保護者との確認を行う。	・保護者の利用希望日の調整に配慮し、安心して利用していただけるようにする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		非常勤心理士による相談を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している				父母の会はつくっていないが連携できる機会をつくる。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10			・苦情に対しては速やかに対応しており、安心してご利用いただけるよう十分配慮していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	4	SNS等を利用して発信している。	・発信量が少ないので、保護者等に周知できるよう発信を増やしていく。
	35	個人情報に十分注意している	10			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	3		・保護者との連絡方法についてSNSの利用など検討していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10		地域の図書館や商業施設などを積極的に利用している。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	3		・作成したマニュアルについて保護者に周知し、不安なく利用できるようにする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10		避難訓練を定期的に行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10			